

出前講義について

東京家庭裁判所判事補 石川貴司

東京家庭裁判所は、「学校に裁判官を呼んでみよう！！」ということで、希望される都内の小学校・中学校・高校・大学・専門学校を対象に、家庭裁判所の仕組み、裁判官の仕事内容、体験談等について、裁判官が当該学校を訪ねてお話しする「出前講義」を実施しています。私は、去る平成20年3月4日、稲城市立稲城第五中学校（以下「稲城五中」といいます。）をお訪ねし、この「出前講義」を行ってきました。以下、そのときの様子を御報告しようと思います。

稲城五中では、午後1時35分から午後3時25分までの2時限分の時間をいただいて、中学3年生の皆さんに対し、講義をして参りました。具体的なスケジュールは、1時限目に体育館で学年全体に対する講義、2時限目に中学3年生5クラスを一つ一つ回らせていただいて質問を受ける、というものでした。生徒の皆さんは、午前中が球技大会で体力面で消耗されている（？）中、それでも熱心に話を聞き、かつ質問もしてくださいました。



私のこの「出前講義」当時の担当職務は少年審判でありましたので、1時限目の全体講義においては、冒頭の約10分程度、事前に学校にお願いして生徒の代表の方1名を選出させていただき、その生徒の方を裁判官役、私を少年役として、「プチ模擬少年審判」を実施しました。その設例は下記のとおりです。

記

石川少年は、平成×年△月○日、Aという場所で、Bさんの持ち物である自転車1台を盗んだ。

石川少年は、高校生で、高校には真面目に通い、野球部に入っている。野球部の活動は月曜日が休みになっている。

石川少年は、この窃盗事件を起こしてしまったころは、部活が終わった後、いつも地元の友達のところへ会いに行き、親から門限として決められている午後10時ぎりぎりまで友達と話をしてから家に帰るという生活を繰り返していた。この窃盗事件は、いつも以上に遅くまで友達と話し込んでしまった石川少年が、このままでは門限に間

に合わないと思っていた帰路の途中で、たまたま鍵が付いたままの自転車を見付け、後で返しておけばよいだろうと考えてその自転車を盗んでしまったという事件である。盗んだ自転車に乗ってちょっと走ったところで、石川少年は、たまたま通りかかった警察官に呼び止められ、自転車を盗んだことがばれてしまった。石川少年は、警察官から、盗むときに盗まれる被害者がどんな思いをするかを考えなかったかと聞かれたときに、自分が門限までに帰るのに必死で被害者の気持ちは考えなかったと話している。

なお、石川少年は、この窃盗事件を起こすより前に、気に入っていた自分の自転車を盗まれてしまったことがあった。



この設例を前提に、裁判官役の生徒の方に、石川少年を演じる私に対し、石川少年を反省させるための質問を、特にシナリオを定めることなく自由にしていただきました。最初は快調に質問が続きましたが、私からの予想外(?)の回答があったこともあり、徐々に質問が難航し始め、最後の方は質問というよりは説論という感じに……。 「プチ模擬少年審判」終了後、裁判官役の生徒の方に感想をお聞きしたところ、質問をして相手に話をさせながら相手を反省させることはとても難しかった、とのことでした。これは非常に的を射た素晴らしい感想で、少年審判を行う上での難しさの一つを見事に言い当てたものだったと思います。なお、この「プチ模擬少年審判」に伴い、私から、少年審判とはどのようなものであるかの簡潔な説明を行いました。

以上の「プチ模擬少年審判」の後、1時限目の全体講義では、①私の自己紹介として、家族構成や趣味などを、②私が、中学1年生のころに同級生からされたことで嫌な思いをしたことがあったので、人間が気持ちよく社会で生活するためのルールというものに興味を持ち始め、それが転じて法律に興味を持ち始めた経緯を、③裁判官という職業を選ぶときの自分に影響を与えた私の高校時代の失敗体験を、④中学、高校時代を過ごすときに意識していたことを、⑤少年事件を担当していて中学3年生である生徒の皆さんに伝えたいこと（自分がやろうとしていることで誰がどのような思いをするのかを含め、後先を考慮することが大切であること、どんなに世の中が便利になっても、人の顔を見ながら直接話をするのは本当に大切であること）をお話ししました。どれも全く威張ってお話しできる内容ではありませんでしたが、生徒の皆さんはしっかり耳を傾けてくださいました。

2時限目の各クラスを回る質問時間は、生徒の皆さんと近い距離で顔を合わせながら、様々な率直な質問を受けることができました。生徒の皆さんから受けた質問としては、①少年事件を担当しているということだが、裁判官は少年に処分をするときどんな気持ちになるのか、裁判官は裁判をやっていてその裁判の当事者を嫌いになることはあるか、裁判官の仕事をしていて、嬉しいときや楽しいとき、悲しいときやつらいときはそれぞれどのようなときかなど、裁判官の気持ちを問う質問や、②裁判官をしていて、難しいと思った

り大変だと思う仕事はどのような仕事か、今までの仕事の中で印象に残る仕事はどのような仕事かなど、裁判官の仕事内容を問う質問や、③司法試験の勉強をしているときは、どのくらいの時間勉強したか、どのような生活をしていたかなど、司法試験受験時代の生活を問う質問などがありました。中には、裁判官はどうやって真実を見付けるのかという熱い質問や、裁判官の給料に関するユニークな質問もありました。総じて、裁判員制度の導入が近付いている影響からか、裁判官の仕事をする上での気持ちを問う質問が多かったように感じられました。この質問時間について、生徒の皆さんにどれだけご満足いただけたかは分かりませんが、短いながらも有益な時間を共有できたのではないかと思います。

以上が私の稲城五中における「出前講義」についてのご報告です。最初は正直不安がなかった「出前講義」でしたが、実際に行わせていただくと、生徒の皆さんにいろいろお話をさせていただくうちに、今までの自分の裁判官としての短い経歴の中からも、日頃気付かなかった新たな刺激を受けることができ、今後の自分にとって大切な経験をすることができました。お世話になりました稲城五中の先生及び生徒の方々、本当にありがとうございました！！

以上



[あなたの学校にも裁判官を呼んでみませんか。](#)